

SCHOOL DATA

〒289-2143 千葉県匝瑳市八日市場口 390

TEL 0479-72-1588 FAX 0479-73-3199

■児童数/443人 ■教職員数/40人

■周辺環境/住宅地、水田、畑、斜面林（社寺林）

【平成22年5月1日現在】



敬愛大学 八日市場高等学校



【里山の生物の観察会（主にトウキョウサンショウウオ）】

ビオトープの概要

- 場所/学校敷地外（匝瑳市宮本）
- 面積/940m²
- 設置者/学校
- 設置した年/2010年
- 主な管理者/里山ビオトープ整備委員会

【生息している動物】

トウキョウサンショウウオ
ホトケドジョウ、ドジョウ
アカハライモリ、ニホンアカガエル、アズマ
ヒキガエル、ヘイケボタル等

【生育している植物】

スギ、ヒノキ、コナラ、アカガシ
ヤマツツジ、ヒサカキ、ガマズミ、スタジイ、
エゴノキ、ハリギリ、シロダモ、ハゼノキ、
ヤマユリ、モミジイチゴ等

【コンセプト】

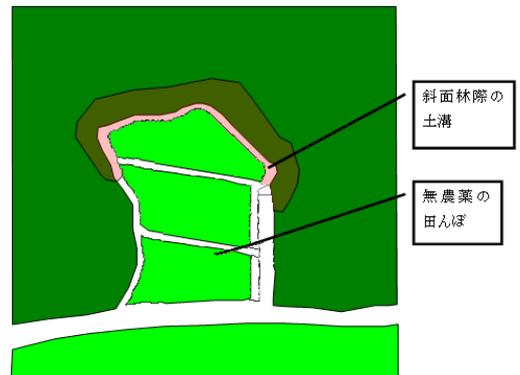
千葉県北東部の下総台地には貴重な生物が多く生息している里山が残されている。学校から10分ほどで行けるところにこの里山がある。ここにはトウキョウサンショウウオ・ニホンアカガエル・アカハライモリなど絶滅危惧種が多く生息している。里山の一部を借りて里山ビオトープとして活用することは、里山の指標生物となるこれら生物が生育できる環境を維持していくことに繋がり、自然の大切さ・生物多様性について学ぶ場所として活用が期待できる。

【今後生息・生育させたい生物】

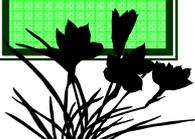
待避池にトンボの仲間。上記生物の生息環境の維持と保護増殖をしていきたい。



【整備を終えたビオトープ全景】

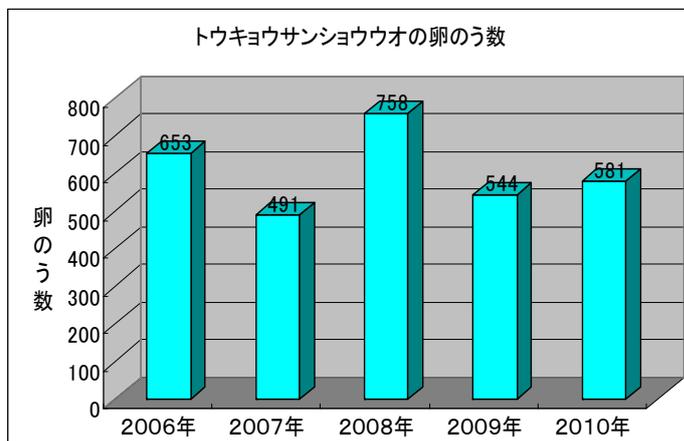


【トウキョウサンショウウオの幼生】





【里山の生物の観察会（主にヘイケボタル）】



【宮本地区（P3 航空写真）の調査結果】

ビオトープの活用方法

■児童・生徒

- ・環境生態実習、環境教育の自然観察会（トウキョウサンショウウオを中心とした観察会、ホタルを中心とした観察会）
- ・自然科学部による調査研究

■地域住民

- ・自然観察会（トウキョウサンショウウオを中心とした観察会）
- ・自然観察会（ホタルを中心とした観察会）

ビオトープの効果

■生徒・児童への効果

- ・里山に生息する生物の観察を通して、自然の大切さを学び、生物多様性について理解する場となる。

■教職員への効果

- ・理科・生活科・総合学習の時間の中で効果的に実習・活用ができる。

■保護者・地域住民への効果

- ・里山に生息する生物の観察会を通して、自然に親しむ機会が増えるとともに貴重な生物の生息を知ることができる。また、里山の重要性を知る機会になる。

■その他、期待される効果

- ・里山環境の保全・絶滅危惧種生物の保護増殖につながる。

保護者・地域との連携

■保護者・地域住民

- ・PTA 後援会、八日市場ロータリークラブで里山の生物について説明した。
- ・地域の方の指導のもと斜面林の整備・溝の改修・待避池の造成を行った。



【トウキョウサンショウウオの卵のう】

整備・活用・管理等の課題

斜面林際の土溝は、溝掘りをしないと有機物が貯まりヘドロ化し貴重な生物にとって悪い環境となるので、毎年手入れをする必要がある。耕作をやめると次第に土砂の堆積により埋まり止水が消失してしまうので、農業振興や後継者の育成に力を入れてほしい。また、ビオトープとして維持していくためには、整備・管理が必要でありさらに観察会の開催には指導者が必要となる。そのために実行委員会を活発化させて人づくりをしていきたい。

今後の展望

- ・より多くの地域住民に貴重な里山であることの認識を持ってもらい、後世に残せる里山にしたい。
- ・貴重な生物がいることを周知し、ホタルなどの安易な採集を謹んでもらいたい。
- ・千葉県野生生物を考える会とともに今後も調査研究を行いたい。

整備担当者(教員、児童、保護者等)から

- ・生徒はスコップやレーキを使用した経験が殆ど無いので力の入れ方が分からず、手にマメが出来たり、ズボンが泥だらけになった。
- ・待避池を作るための土のう作りは初めての経験だったらしく、土をどのくらい入れたらいいのかの加減が難しかった。池が出来たそばからオニヤンマが産卵に訪れたのは感動しました。池を作って良かったと思った。



【自然科学部生徒による整備作業】